

学生の英語力 スペリング能力に課題

効果的な指導・学習方法の開発を目指す

大学教育・学生支援機構 グローバルイニシアチブセンター
副センター長・言語教育ミッション長

准教授 **高波 幸代**

たかなみ さちよ

1、2年生の英語教育に携わっている高波幸代准教授は、学生の英語のスペリング能力について研究を進めている。単語の「音」「文字(綴り)」「意味」の3要素がどの程度身についているかを調査した結果、大学生であっても中学、高校で学んだ英単語の正しい綴りを書けないことが分かった。現在、日本のように外国語として英語を学ぶ環境において、有効かつ汎用性の高いスペリングテストの作成、スペリング指導および学習方法の開発に取り組んでいる。



—— グローバルイニシアチブセンターには言語教育、グローバル人材の育成(GFL)、本学と海外大学との連携を推進するための学生交流の三つのミッションがあり、先生は言語教育ミッション長ですね。

統一カリキュラムにおける英語教育(1年次・2年次必修)の取りまとめを担当しています。日々の授業から得られるさまざまな気づきを活かし、教科書作成やシラバスの修正等、言語教育の改革に取り組んでいます。

—— 先生は学生のスペリング能力に課題があると指摘されています。

これまでに中学、高校、高専、大学と、さまざまな年代の英語学習者を指導しましたが、どの場面でも、正しい綴りを書けず、苦手意識を持つ学習者が目立ちました。書く力の育成は急務であると感じたことが、研究を始めるきっかけになりました。綴りが書けないと、英語で文章を書くことも不安になります。そこで、学習者の抱える課題を見

つけ出す診断テスト開発のために、科研費「若手研究」(研究課題：スペリングテストの難易度に影響を与える要因：形式、語彙、熟達度、学習背景の比較、2021～2023年度)を利用して研究に取り組みました。

—— これまでの研究でわかったことを紹介してください。

大学生であっても中学・高校で学んだ英単語の正しい綴りを書けないことが明らかとなりました。日本ではスペリング力を身に着けることの重要性があまり指摘されていないことも背景のひとつに考えられます。

私がこれまでの研究で中心的に扱ってきたのは、単語の「音(発音)」、「文字(綴り)」、「意味」の3要素です。この3要素がどの程度身に着いているかを明らかにするために、英語から日本語(受容的知識)、日本語から英語(産出的知識)という知識の方向性に注目しつつ、自分で答える形式(再生課題)と正しい解答を選ぶ形式(再認課題)を用意し、要素(3)×知識の方向性(2)×テスト形式(2)＝計12種の診

断的評価を目的としたスペリングテストを作成し、検証を行いました(図)。

結果から、日本人英語学習者(大学生)は既習の英単語の正しい綴りを選ぶことはできますが、自分で答える形式のテストになるとパフォーマンスが下がることが示唆されました。約半数の学習者がpoor spellers(綴りを正しく書けない学習者)に該当する可能性があります。

❖ 正確なスペリング習得のために

—— 現在、効果的なスペリング指導と学習方法の開発をテーマに新しい研究に取り組んでいますね。

今年度から4年間のプロジェクトとして採択された科研費「基盤C」(研究課題：EFL環境における効果的なスペリング指導と学習方法の開発、2025年度～2028年度)では、日本のように外国語として英語を学ぶEFL(English as a foreign language)環境において、どのようなスペリング指導や学習方法が有効であるかを検証します。特に、日本人大学生が英単語の正確なスペリング(綴り)を習得するために効果的な指導と学習の組み合わせを明らかにし、実践的な指導と学習方法の開発を行う計画です。

教師の指導が役立つのか、教師の指導と学習者自身の気づきが必要なのか、どのような組み合わせが最も効果的なのか、また指導や学習によってスペリング力が向上した場合、書くことへ意欲や自信度にはどのような変化が見られ

るか、といった点に注目します。EFL環境においてスペリング習得を促進させるために必要な要素を整理し、有効かつ汎用性の高い指導および学習方法の開発を目指します。

—— スペリング力を高めることの社会的な意義は？

正しく文字を綴ることは非常に基礎的な能力です。しかし、ここでのつまずきが英語への苦手意識や英語力の伸び悩みに繋がる可能性があります。スペリング力を高めることは、文字を介したコミュニケーションを円滑に進めるための最初のステップとなりますので、丁寧に取り組むべき分野です。誤字脱字ばかりの文章は、読み手に不安を感じさせ、余分な時間をかけさせ、円滑な情報伝達を妨げます。「正しく書く」ことの大切さを、母語でも外国語でも同じように捉えることができれば、言葉のやりとりで責任を持てる人間へと成長できるはずです。

—— 抱負は？

コミュニケーション能力の不足は、日本語、英語ともに年々目立っているように感じます。気軽にやりとりができるツールが増えたことで慎重に言葉を紡ぐ意識が薄れてきたのかもしれない。伝える相手のことを考え、さまざまな場面で自分の言葉を誠実かつ正確に届けられるグローバル人材へと学生たちが成長できるように、学内外組織と連携しながら、環境づくりに取り組んでいきたいと思います。

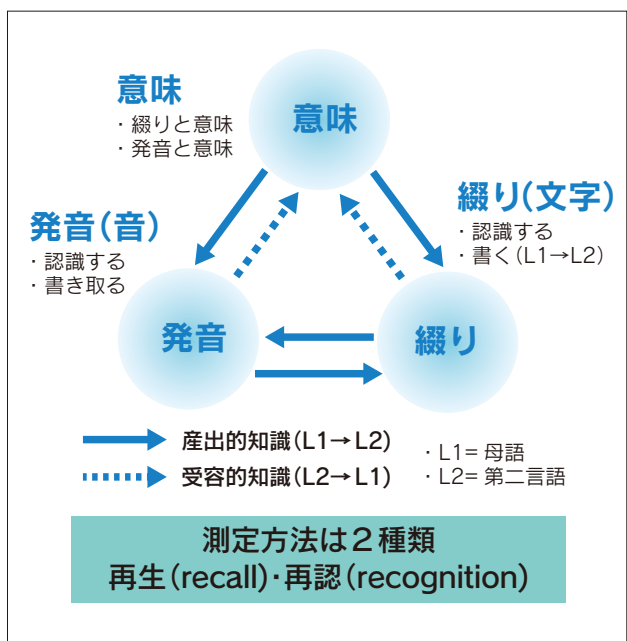


図 診断的評価を目的としたスペリングテスト12種

[英語の教科書作り]

教養英語教育改革のために、2019年からプロジェクト型学習(PBL)を中心に据えた全学部統一シラバス、統一教科書がワーキンググループで計画され、Leap to the Futureが誕生しました。2021～2023年度までは1年生用として2冊が製作され、2024年度から1年生、2年生用として使用できるように大幅な改訂を加えました。私は2022年度後期から編集を引き継ぎ、英語担当教員皆で協力しながらより良い教科書を届けられるよう尽力しています。

